

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 (製品名) **10X RIPA**
 会社名 TOMY Digital Bio
 住所 2-9-1 Ikenohata
 Taito-Ku, Tokyo 110-0008
 日本

電話番号 (831) 713-4465
 ウェブサイト dovetailgenomics.com
 緊急時電話番号 +1 760 476 3960
 アクセスコード 334943

整理番号 DG-RIPA

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 分子生物学キット。
 使用上の制限 製造者の推奨事項に従って使用すること。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 GHS分類基準に該当しない。
 健康に対する有害性 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2
 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1
 環境に対する有害性 水生環境有害性(急性) 区分3

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険
 危険有害性情報 皮膚刺激。 重篤な眼の損傷。 水生生物に有害。

注意書き

安全対策 取扱い後はよく洗うこと。 環境への放出を避けること。 保護眼鏡/保護面を着用すること。
 保護手袋を着用すること。

応急措置 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管 避けるべき物質の近くに保管しない。

廃棄 内容物/容器を地域/地方/国/国際規則に従って廃棄すること。

GHS分類に該当しない他の危険有害性 知見なし。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

重要な徴候 重度の眼刺激。症状には、刺すような痛み、流涙、充血、はれ及び眼のかすみなどがあります。失明等の永久的な眼の損傷がおこる可能性がある。皮膚刺激性 充血と痛みを起すことがあります。

非常事態の概要 重篤な眼の損傷。皮膚刺激。水路に排出されると環境に対して危険である。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

| 成分 | CAS番号 | 官報公示整理番号 | | 含有量 (%) |
|--|-----------|----------|-----------|---------|
| | | 化審法 | 安衛法 | |
| ポリ(オキシ-1,2-エタンジイル)、 α -[4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェニル]- ω -、ヒドロキシ- | 9002-93-1 | | (7)-172 | 10 |
| デオキシコール酸ナトリウム | 302-95-4 | | 7-(1)-318 | 2.5 |

化学式 C16H26O2 (9002-93-1), C24H41NaO3 (302-95-4)
 組成情報 成分がガスでない限り、全ての濃度は重量パーセントである。ガス濃度は容量パーセントである。リストに記載されていない成分は、非危険有害性であるか、報告義務限度未満のいずれかである。

4. 応急措置

吸入した場合

皮膚に付着した場合

目に入った場合

飲み込んだ場合

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

応急措置をする者の保護

医師に対する特別な注意事項

5. 火災時の措置

消火剤

使ってはならない消火剤

火災時の特有の危険有害性

特有の消火方法

消火を行う者の保護

一般的な火災の危険性

特定の消火方法

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法及び機材

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（局所排気、全体換気等）

安全取扱い注意事項

接触回避

適切な衛生対策

保管

安全な保管条件

安全な容器包装材料

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度（暴露限界値）および管理濃度

設備対策

保護具

呼吸器の保護具

手の保護具

目の保護具

皮膚及び身体の保護具

空気の新鮮な場所に移動する。 症状が悪化したり継続したりする場合は医師に連絡する。

汚染された衣服を脱ぐ。 多量の水で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

直ちに多量の流水で最低15分間眼を洗浄する。 コンタクトレンズをしていて容易に取り外せる場合は取り外す。 その後も洗浄を続けること。 ただちに医師の手当てを受ける。

口をすすぐこと。 大量に飲み込んだ場合は、直ちに毒物管理センターに連絡する。

重度の眼刺激。 症状には、刺すような痛み、流涙、充血、はれ及び眼のかすみなどがあります。 失明等の永久的な眼の損傷がおこる可能性がある。 皮膚刺激性 充血と痛みを起すことがある。

医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。 この安全データシートを担当医に見せる。

一般的な処置および症状にあわせた適切な治療を施す。 被災者の観察を続ける。 症状は遅れて出てくることがある。

水噴霧。 泡消火剤。 粉末消火剤。 二酸化炭素（CO2）。

消火に水噴射をしない。 これは火災を拡散することになる。

火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。

危険でなければ、火災区域から容器を移動させる。

火災の際は自給式呼吸器および全身保護衣を着用しなければならない。

異常な火災や爆発の危険性は知られていない。

通常の消火手順を用いる。 影響を受けた他の物質の有害性を考慮する。

関係者以外の立ち入りを禁止する。 こぼれやもれが起きている場所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させる。 清掃中は適切な保護具および防護服を着用する。 適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らない。 十分な換気を確保する。 流出が著しくて回収できない場合は、現地当局に通告すべきである。 個人用保護具については、本SDSの項目8を参照。

環境への放出を避けること。 全ての環境流出に該当する管理または監視要員に通知すること。 安全を確認してから、もれやこぼれを止める。 下水や水路、地面に排出しない。

製品を排水施設に流してはならない。

大量の漏出： リスクを伴わずに可能なら、物質の流れを遮断する。 可能な場合は漏出物をせき止める。 パーミキュライト、乾いた砂または土に吸収し、容器に収納する。 製品回収後、その付近を水で洗い流す。

少量の漏出： 吸収材（例：布、フリース）で拭き取る。 残った汚染を取り去るには、床を徹底的に清掃すること。

絶対に流出物を元の容器に回収して再使用してはならない。 廃棄物の廃棄方法については、本SDSの項目13を参照。

危険でなければ、漏れを止める。 環境への放出を避けること。

適切な換気を行う。

当材料を目に接触させないで下さい。 眼、皮膚、衣服への接触を避ける。 環境への放出を避けること。 産業衛生に気を配る。 本SDSの項目8で推奨されている個人用保護具を使用すること。

詳細については、本SDSの項目10を参照。

本物質を取り扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとる。 汚染物質を取り除くために定期的に作業衣と保護具を洗う。

容器を密閉しておくこと。 混触禁止物質から離して保管すること（本SDSの項目10を参照）。 元の容器に密閉して保管する。

含有成分に関して暴露限界は設定されていない。

適切な全体換気を行わなければならない。 換気回数は状況に合わせる。 暴露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空气中濃度を暴露限界値以下に保つ。 暴露限界値が設定されていない場合も、空气中の濃度を適切な濃度以下に抑える。 洗眼設備および安全シャワーを設置する。

換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。

適した耐化学薬品性の手袋を着用しなければならない。 適切な手袋は、手袋の専門業者に推奨してもらうこともできる。

サイドシールドのついた安全眼鏡（またはゴーグル）とフェイスシールドを着用する。

適切な耐化学薬品性の衣服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

| | |
|----------------|---------|
| 物質の状態 | 液体。 |
| 形状 | 液体。 |
| 色 | データなし。 |
| 臭い | データなし。 |
| pH | データなし。 |
| 融点・凝固点 | データなし。 |
| 沸点、初留点と沸騰範囲 | データなし。 |
| 引火点 | データなし。 |
| 燃焼性（固体、ガス） | 該当しない。 |
| 燃焼又は爆発範囲 | |
| 燃焼範囲－下限(%) | データなし。 |
| 燃焼又は爆発範囲－上限 | データなし。 |
| 蒸気圧 | データなし。 |
| 蒸気密度 | データなし。 |
| 比重 | データなし。 |
| 溶解度 | |
| 水溶性 | データなし。 |
| n-オクタノール／水分配係数 | データなし。 |
| 自然発火温度（発火点） | データなし。 |
| 分解温度 | データなし。 |
| 粘度（粘性率） | データなし。 |
| その他の情報 | |
| 爆発性状 | 爆発物でない。 |
| 酸化能力 | 酸化性でない。 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 反応性 | 本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定かつ非反応性である。 |
| 化学安定度 | 通常状態で安定。 |
| 危険有害反応可能性 | 一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。 |
| 避けるべき条件 | 混触危険物質との接触。 |
| 混触危険物質 | 強酸化剤。 |
| 危険有害な分解生成物 | 危険有害な分解生成物は知られていない。 |

11. 有害性情報

| | |
|-------------------|---|
| 急性毒性 | 急性毒性であるとは予想されない。 |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | 皮膚刺激。 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | 重篤な眼の損傷。 |
| 呼吸器または皮膚感作性 | |
| 呼吸器感作性 | 呼吸器感作性物質でない。 |
| 皮膚感作性 | この製品は、皮膚感作を引き起こすとは思われない。 |
| 生殖細胞変異原性 | 本製品あるいは製品中に0.1%以上含有する成分に変異原性または遺伝子毒性があることを示すデータはない。 |
| 発がん性 | ヒトへの発がん性を分類できない。 |
| 生殖毒性 | この製品は、生殖影響または発達影響を引き起こすとは予想されない。 |
| 特定標的臓器毒性（単回暴露） | 分類基準に該当しない。 |
| 特定標的臓器毒性（反復暴露） | 分類基準に該当しない。 |
| 吸引性呼吸器有害性 | 吸引性呼吸器有害性でない。 |

12. 環境影響情報

| 環境影響データ | 種 | 試験結果 |
|--|------|--------------------------|
| 成分 | | |
| ポリ（オキシ-1,2-エタンジイル）、 α -[4-(1,1,3,3,-テトラメチルブチル)フェニル]- ω -、ヒドロキシ-（CAS 9002-93-1） | | |
| 水生 | | |
| 急性 | | |
| 甲殻類 | LC50 | オオミジンコ >= 44 mg/1, 48 時間 |
| 魚類 | LC50 | 魚類 16 mg/kg |
| 生態毒性 | | 水生生物に有害。 |
| 残留性/分解性 | | この製品の分解性についてのデータはない。 |
| 生体蓄積性 | | データなし |

| | | | |
|-------------------------------------|--|----------|---|
| 土壌中の移動性 | 本生成物のデータはありません。 | | |
| オゾン層への有害性 | データなし | | |
| 他の有害影響 | その他の環境悪影響（例、オゾン層破壊、光化学オゾン生成可能性、内分泌かく乱、地球温暖化の可能性）は、これらの成分からは期待されません。 | | |
| 13. 廃棄上の注意 | | | |
| 残余廃棄物 | 現地の規定に従い、処分する。 空の容器やライナーには製品の残余物が残っている可能性がある。本物質とその容器は安全な方法で廃棄しなければならない（「廃棄上の注意」参照）。 | | |
| 汚染容器及び包装 | 製品の残余物が残っているかもしれないので、容器が空になった後もラベルの警告に従う。 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、承認された廃棄物処理施設に運ばなければならない。 | | |
| 地域の廃棄規制 | 廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。 本物質を下水 / 水道供給経路に流入させてはならない。 薬剤または使用済容器で、池、水路、溝を汚染しないでください。 内容物／容器を地域／地方／国／国際規則に従って廃棄すること。 自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託する。 | | |
| 14. 輸送上の注意 | | | |
| IATA | 危険物には該当しない。 | | |
| IMDG | 危険物には該当しない。 | | |
| MARPOL73/78条約の附属書II及びIBCコードによるバルク輸送 | 未確定。 | | |
| 国内規制 | 国内輸送については15章の規制に従うこと。 | | |
| 15. 適用法令 | | | |
| 労働安全衛生法 | | | |
| 通知対象物 | 該当せず。 | | |
| 表示対象物 | 該当せず。 | | |
| 毒物及び劇物取締法 | | | |
| 特定毒物 | 該当せず。 | | |
| 毒物 | 該当せず。 | | |
| 劇物 | 該当せず。 | | |
| 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 | | | |
| 第一種特定化学物質 | 該当せず。 | | |
| 第二種特定化学物質 | 該当せず。 | | |
| 監視化学物質 | 該当せず。 | | |
| 優先評価化学物質 | 該当せず。 | | |
| 化学物質排出把握管理促進法 | | | |
| 特定第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量) | 該当せず。 | | |
| 第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量) | ポリ（オキシエチレン）＝オクチルフェニルエーテル | 政令番号 408 | 10 % (ポリ（オキシ-1,2-エタンジイル）、 α -[4-(1,1,3,3,-テトラメチルブチル)フェニル]- ω -、ヒドロキシ-) |
| 第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量) | 該当せず。 | | |
| 消防法 | 消防法の危険物に該当しない。 | | |
| 船舶安全法・危規則 | 該当せず。 | | |
| 航空法・施行規則 | 該当せず。 | | |
| 火薬類取締法 | 該当せず。 | | |
| 海洋汚染防止法 | アルキルフェノールポリエトキシラート(アルキル基の炭素数が Y 類七から十一までのものであって重合度が四から十二までのもの及びその混合物に限る.) | | |

16. その他の情報

引用文献

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices
HSDB® - Hazardous Substances Data Bank
IARC発がん性評価モノグラフ
National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens
日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告
日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン、2012年6月
JIS Z 7252 : 2014 GHS に基づく化学品の分類方法
JIS Z 7253 : 2012 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示
及び安全データシート (SDS)

Dovetail Genomics, LLC は、本情報と当社製品、または当社製品と他のメーカーの製品の組み合わせが使用されるあらゆる状況を予測できるわけではありません。製品の処理、保管および処分を行う際に安全な状況を確認するのはユーザーの責任であり、ユーザーは不適切な使用による損失、傷害、損害または費用に法的責任を負います。 シートの情報は、現在入手できる最高の知識と経験に基づき記入されています。